

品野台カントリークラブの歴史

所在地は、愛知県瀬戸市。日本では、陶磁器を瀬戸物というが、瀬戸物の主産地だから「瀬戸」ではない。地名はもっと古い。尾張丘陵地の一角、狭い谷間を流れてきた瀬戸川が極まる渓谷、その先は広々とした濃尾平野だ。そこを古来瀬戸といった。

周辺は、10世紀ごろから、陶磁器、ガラスの原料となる粘土、珪砂を産出することで知られ、陶処と呼ばれ、転じて「瀬戸」という説もある。

昭和50年代に入って瀬戸市の環境は一変。生活スタイルの変化で、窯業関連の工場は、最盛期の半分、その跡地にはマンションが建ち始めた。さらに愛知万博を機に高速道路が開通し、三河方面、東濃方面からも40分と急速にベッドタウン化が進んだ。

品野台CCの誕生は、こうした名古屋周辺の急速な都市化の動きと無縁ではなかった。場所は、瀬戸市の中心から6キロの上品野町、標高190メートル、南傾斜の丘陵地に約24万坪。一帯は学園都市として開発が進められていた一画だった。

ゴルフ場計画は中京財界人から「ゴルフ人口の割りに名古屋にはゴルフ場が少ない」との声に地元財界人を中心に計画が進められた。

コース設計は、中部ゴルフ界の重鎮・長谷川武治氏が手がけ。長谷川氏は名古屋GC和合コースの倶楽部チャンピオン4回、関西アマ優勝の名手で、後に中部ゴルフ連盟副会長歴任。設計したコースは、犬山CC、伊良湖CC、豊田CC、名古屋グリーンCCなど5コースにおよぶ。

品野台CCは、昭和44年10月10日に本開場する。18ホールズ6、559ヤード・パー72（高麗ワングリーン）。コースは「理想的なヒダをもった敷地で意欲を燃やした。徒らにロングホールを持つよりも、ホール毎に戦略的、意欲的に攻める面白さとスリルを味わうコース」と当時の長谷川氏は語っていた。

その後、長谷川氏の後継者である小笹昭三氏の監修により、平成17年に全ホールの改修工事及び高麗グリーン（ワングリーン）からベントグリーン（ツググリーン）へと改造工事が完了した。

改造前の18ホールズ6、559ヤード（コースレート70.2）から改造後は18ホールズ6、878ヤード（コースレート72.5）となり、全長距離は319ヤード拡張したことになり時代感覚と共にコースも進化した。

週刊ゴルフダイジェスト 2011 No.38より抜粋



長谷川武治氏



コース完成時のクラブハウス



開場後のコースにはまだ樹木が育っておらず広々としている



開場式でテープカットする松尾信資愛知県副知事



現在のコース

開場50周年記念関連事業

- ◆ クラブハウス壁面塗装工事、大屋根一部改修工事及び玄関車寄せ屋根改修並びに塗装工事完了
皆様をお迎えする、クラブハウスが美しくなりました。
- ◆ 乗用5人乗電磁誘導式カート前車（50台）に最新型GPSカートナビを搭載
戦力を立てる楽しさが増しました。コンペ順位が見られます。
- ◆ 練習場横、カート庫新築工事完了
カートを大切に管理いたします。
- ◆ No.1、No.5、No.10、No.15番ホールレディースティー拡張工事完了
女性に優しいコースをめざします。
- ◆ No.11番ホールカートレール新設工事完了
ゴールド・レディースティーへの移動が楽になりました。
- ◆ コース内メイングリーン周辺バンカー砂の全面入替え工事完了
バンカーショットは難しくなりましたが最高のバンカーになりました。
- ◆ クラブハウス2階食堂の男子・女子トイレ 全面改修工事完了
清潔、かつ美しくなりました。
- ◆ 練習場打席屋根改修工事完了
雨の雫に濡れることなく練習していただくことが出来るようになりました。

